

### 活動の場所

長野県飯綱町上村



### 活動目的

長野県飯綱町のスキーリゾートを一望する立地にある、約8,700㎡の耕作放棄地を舞台に、建築設計の思考プロセスを応用した独自の「然帯農法(さおびのうほう)」を実践しています。本プロジェクトは、単なる農作物の生産を目的とするのではなく、土地の地形、水、風のふるまいを読み解き、最小限の介入によって失われた生態系を再構

### 活動内容

#### 1. 然帯農法による「時間変化」の設計

「無起耕・無農薬・無肥料」を基本原則とし、外からの過剰な操作を排した設計思想に基づきます。特に、完成をゴールとせず、季節や年月による「時間変化」を継続的に観察することを重視しています。植物の成長や生物相の移り変わりを、土地が自律的に更新されていく「改修プロセス」と捉え、現場での微細な応答を繰り返すことで場を育てています。

#### 2. 広大なフィールドを活かしたハビタット創出

8,700㎡の敷地特性を活かし、土地の起伏を読み解きながら、水の停滞を防ぎ循環を促す池(ビオトープ)を造成。水辺を起点とした多様な生物相の回復を図るとともに、ドローン等を用いた定期的な定点観測により、環境の変化を「風景の移ろい」として可視化・記録しています。

#### 3. 地域資源の循環とアグリツーリズムの形成

農園に隣接する古い牛舎を農産物の加工・販売拠点として改修し、さらに近隣の古民家を宿泊・体験の場としてリノベーションすることで、農・食・住が溶け合う地域循環型モデルを構築しています。建築事務所としての知見を活かし、土地の記憶を未来へ繋ぐ空間づくりを並行して進めています。

取り組み紹介動画 : [youtube動画\(シーンデザイン建築設計事務所 源次ナッツファーム2nd year video\)](#)

### PRしたいポイント

「建築的視点と独自の『然帯農法』を用い、飯綱町約8,700㎡の耕作放棄地を環境配慮型農業の拠点へ再生。牛舎や古民家のリノベーションによる資源循環とアグリツーリズムを核に、持続可能な地方創生と次世代への環境教育を同時に実現する、建築家主導のネイチャーポジティブ・モデルです。」

### 活動効果、今後の展開 等

#### 4. 記録・管理システムの構築(今後の展望)

土地の微細な変化を記述・共有するためのWebアプリケーション「さおびノート」の構築を構想中です。このツールにより、個人の経験則に頼らない、開かれた生物多様性モニタリング体制の確立を目指します。